

＜参考＞ 第1回懇話会のご意見に対する考え方、骨子案への反映について

項目	第1回懇話会における主なご意見(概要)	ご意見に対する考え方、骨子案への反映
1 基本的な考え方	① 「美の滋賀」発信懇話会提言の理念は非常に今日的な内容であり、SDGsや県基本構想の考え方とも整合している。 一方で、理念と具体の施策が混在しているため、どの部分が今後も活かしていくべき理念であるのかを再整理した上で、取組を継続していく必要がある。	提言の理念(滋賀らしい「美」の発信のあり方)、課題認識や目指す方向性は、今後の展開の方向性とも合致しており、引き続き、ベースの考えとして継承する。 加えて、コロナや県基本構想、SGDsの取組を踏まえ、今後は、より幅広い視点から、滋賀の多様な美の魅力を全体として発信していく。
2 SDGs	① ミュージアムがSDGsに取り組んでいくことは世界的潮流である。地域の歴史、マイノリティ、ジェンダー等の問題を、正面から取り上げていくことが求められている。近代美術館がSDGsに取り組むことは理に適っており、他府県に先駆けて取り組むべき。 ② 社会への関与は今や現代アートの基本であり、SDGs等の新しい価値観に向けて、美術はどうあるべきかという姿勢が問われている。	SDGs未来都市として、今後の美の滋賀の新展開や再開館後の近代美術館の活動においては、SDGsの視点を重視。 滋賀の持続可能性の向上およびSDGsの目標・ターゲット(自然や文化資源の保護・活用、文化芸術活動の活性化、観光振興等)への貢献の観点から、今後、目標設定も含めて、さらに検討を進める。
3 今後の方向性等	① これまでの事業で育成してきた人材がフォローされていないのではないか。活動をしている県民同士の出会いの場がないという状態を見直すべき。 ② 草の根レベルで芸術を愛好して創作活動を行っている人々をつないでいくべき。県内では、文芸会館等の単位で多くの団体が活動している。そういう方たちが美術関係の行政の一番の応援団になる。県行政が、県内の人材・団体とつながっていないために喪失している機会も多い。そういった人々をつなぐためにもギャラリーを整備してほしい。 ③ 「美の滋賀」全体の窓口、県内で活動を望む人々とのプラットフォームを近代美術館の中に設けるべき。美術や芸術は遠い世界のことだと思う人も多い中、絵画や彫刻だけでなく、自然の美なども含めた身近な美であることを伝えてゆく必要がある。	(仮称)美の滋賀コミュニケーションセンターとして、美やアートを通じた交流や発信の拠点となるプラットフォームを再開館後の近代美術館に設置する。 プラットフォームにおいては、美の応援団づくりとして、関係者のネットワークづくりや、美術関係団体や大学等との連携、アート・サポーターの育成等に取り組むほか、相談やコーディネート機能も付加することを考えている。
	④ 文化財については、着地型観光の視点で、地域の方が熱く語る環境を整えてほしい。	(仮称)新・琵琶湖文化館では、文化観光の拠点となるビジターセンターとして、「近江の文化財」やそれらを生み出した滋賀の情報を収集・発信し、県内各地へ誘うことを想定。

項目	第1回懇話会における主なご意見(概要)	ご意見に対する考え方、骨子案への反映
4 近代美術館の取組の方向性	<p>① 地域、祭り、工芸、アール・ブリュット等を取り上げながらアートとして提言していくのであれば、名称はさておき、「近代」美術館から「現代」美術館になるという姿勢を打ち出していかなければならず、あたらしい滋賀モデルの提示が必要。</p> <p>② SDGsに取り組む企業の支援を受け、友の会が主体となってアール・ブリュット作品を県内の学校に展示する事業を行うことで、県民がいつでもアール・ブリュットを鑑賞できる環境を整えてはどうか。</p> <p>③ 教育現場において、答えのある問題の解き方を教えるだけでなく、何を問うのかということから考えるような教育に移行しており、自分たちの社会をアートの視点から考えるような授業を組み立てる時に、美術館に力になってほしい。</p> <p>④ コロナ禍の中、オンラインの活用が進んでいるが、オンラインとオフラインの取組は、場合によって組み合わせながら取り組んでいくことを考えていけたらよい。</p> <p>⑤ 県民、他機関、文化館等との連携にはコーディネーターのマンパワーが必要。大学で教員のサポートを行っている URA(リサーチ・アドミニストレーター)のようなコーディネーターをする人材の雇用やオンラインの活用などにより、地域との連携のシステムの構築、そして、そのための適正な人員体制を検討してほしい。</p> <p>⑥ 広報、保存修復、普及等専門の部門の整備が必要であり、業務委託等も含めて検討が必要。</p> <p>⑦ 館外プログラムをすべて職員が中心となって行うには限界がある。美術協会等の県全体を網羅する組織とうまく連携し、互いに WINWIN となる活動ができれば、県の施策の応援団にもなってもらえる。</p> <p>⑧ 3年間休館していた美術館がリピーターを確保するには、美術ファンをターゲットとするという趣旨で、他の美術館等の友の会会員証の提示で割引料金とするくらいの思い切った取組が必要。</p>	<p>① 再開館後の美術館では、これまでの近代美術館の枠を超えた事業展開を行うこととしており、具体的な館の運営方針についても、今後、詳細に検討する。</p> <p>② 今後、プラットフォームの取組や、近代美術館の教育普及プログラムの内容を具体化する中で、学校も含めたアール・ブリュット作品の鑑賞機会の確保や魅力発信の方策についても検討する。</p> <p>③ 教育現場との連携は、今後の展開において重要な視点の一つと考えており、関係者のご意見もお聞きしながら、より検討を深める。</p> <p>④ コロナ禍も踏まえ、今年度実施しているウェブサイトの全面リニューアルの中で、ユーザーとの積極的なコミュニケーション、子ども向けコンテンツの充実、ウェブ上でのコレクション紹介など、さらなる機能の充実を図る予定。</p> <p>⑤⑥ 人員および組織の体制については、別途検討。</p> <p>⑦ プラットフォームの設置を通じて、美術関係団体等との連携強化を図りたいと考えており、今後、関係先の意見もお聞きしながら、具体の取組内容を検討。</p> <p>⑧ 観覧料の設定については、別途検討</p>